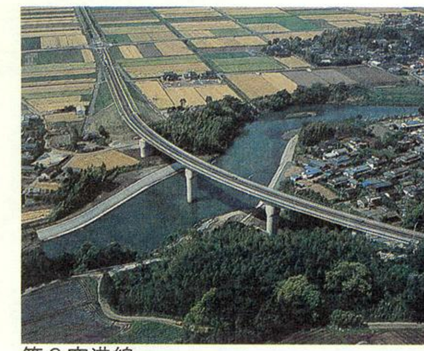
熊本県総合計画　ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと

県では、県民一人一人がそれぞれのライフスタイルを実現でき、多彩な「ゆたかさ」を実感できる社会を目指して、社会システムづくり、地域基盤づくりなど様々な取り組みを行っています。

「躍動するくまもと」づくり

豊かな自然の中で、力強く均衡のとれた発展を目指して

豊かな自然環境の中で、力強く発展する県土くまもとをつくるための取組みが、「躍動するくまもと」づくりです。それぞれの地域が快適な生活の場となり、活力ある経済活動やいろんな地域との活発な交流を行うために必要となる、生活や地域の発展を支える様々な基盤に着目。県土全体、環境、産業基盤、農山漁村、都市、それらが一体となった広域的生活圏、九州あるいは世界の中の熊本といった視点で、整備を進めています。中でも、県内各市町村間、県内と九州各地あるいは世界各都市を結ぶ【交通基盤の整備】、活力のある生活基盤をつくるための【産業の振興】に力を入れています。


第３空港線

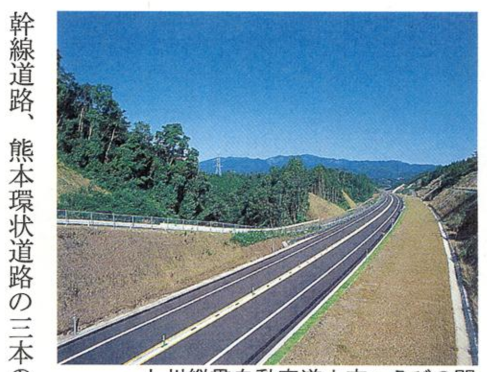
九州新幹線熊本駅部の完成予想図（熊本駅周辺整備構想調査報告書〈昭和61年 国鉄下関工事事務所〉より）

【交通基盤の整備】は、経済活動やレジャーといった生活の場面における基礎となるもので、新幹線、高速道路等の広域高速交通ネットワークや県内幹線道路等を整備することで、熊本市から県内各市まで九十分以内、九州の各県庁所在地まで百五十分で行けるようになることを目指しています。

その中で、**九州新幹線**は、四月に熊本駅部の工事実施計画が認められ、五月には整備調整事業に着工。全線開通に向けて大きく前進しました。

道路の整備では、七月二十七日に、九州縦貫自動車道人吉〜えびの間が開通。南九州西回り自動車道も着々と工事が進んでいます。

また、中九州横断道路や熊本天草幹線道路、熊本環状道路の三本の路線が地域高規格道路（自動車専用道路）計画路線の指定を受け、島原天草長島横断道路（三県架橋）は同候補路線の指定を受けました。その他、熊本阿蘇幹線道路、南関インター〜荒尾・長洲幹線道路などの県内幹線道路網の整備や生活道路の整備を進めています。


九州縦貫自動車道人吉〜えびの間

空港整備では、現在熊本空港に最新の計器着陸装置の導入を進めています。これにより霧を原因とする悪天候でも着陸することができるようになります。

港湾整備では、熊本港に初の貨物岸壁が完成。引き続いて、本格的に貨物の積み出しや荷上げの港としての整備を行います。八代港は五万t級岸壁の整備、水俣港、三角港についてもそれぞれ整備を進めています。

【産業の振興】については、本県では第二次産業のウエイトが全国平均に比べ低く、一人当たりの県民所得は全国三十三位にとどまっています。県が大きく伸びていくためにも、さらに各産業の振興が必要です。

まず、**農業**では、本県は日本有数の食料供給基地としての地位を保っています。近年、農産物の輸入自由化が進みシェアは下がりつつありますが、二十一世紀に向けて今後も自由化に負けない足腰の強い農業（農林水産業）を育てていきます。

テクノポリスセンター（中央緑地公園から）

八代外港

農業研究センター

次に、**製造業**では、企業誘致を進めるとともに、熊本テクノポリス計画など、「製造品出荷額四兆円達成」に向けた取組みを進めています。

また、経済の国際化が進む中、地域における海外商品の輸入拡大策として、**ＦＡＺ（輸入促進拠点地域整備）事業**を進めるための会社が八月に設立されました。

最近の円高や景気回復の鈍り、企業活動の国際化などにより、企業が海外に生産拠点を移したため国内の産業の空洞化が見られます。県内での働く場と県民の所得を確保するため、開拓者精神を持った企業家が新たな産業分野を切り開くことを総合的に支援する施策にも取りかかったところです。

「優しいくまもと」づくり

思いやりにあふれ、誰もがいきいきと暮らせる社会を目指して

県民が互いに助けあい励ましあい、いきいきと暮らせる社会システムをつくるための取組みが「優しいくまもと」づくりです。生活全般にわたり、一人ひとりの自立を支え、思いやりあふれる社会をつくるため、「住まう」「働く」「学ぶ」「楽しむ」といった各場面から施策を計画。子供たち、若者、働く人々、女性、障害者、高齢者、そして県民全体の視点で、優しいくまもとを目指したシステムづくりを進めています。

【優しいくまもと】の中心となるのが**「やさしいまちづくり」**です。推進の基本となる「やさしいまちづくり条例（通称）」を三月に制定、だれもが安心して生活していける社会づくり、ノーマライゼーション（※）の普及に努めています。

また、差別のない明るい社会づくりにも取り組んでいます。

次に、**働く人々の支援**としては、職業能力開発や人材育成を進めています。高度な実践技術者を養成する職業能力開発短期大学校の整備、農業大学校の充実などを進めているほか、Ｕターンアドバイサー制度をつくり、優秀な人材の県内雇用を促進しています。中小企業の経営者や従業員の研修機関である中小企業大学校人吉校も十月四日に開校します。

Ｈ７・３月に導入された、リフト付超低床バス

県立大学

教育面では、昨年度男女共学化、学部増設を行い総合大学になった熊本県立大学のさらなる充実や、特色ある学校づくりとして県立高校への総合学科や全日制単位制の導入に取り組んでいます。また、私立学校に対しては、教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を図るため、助成を行っています。

文化面では、二十一世紀初頭の記念事業として県立博物館を整備することとし、現在基本構想策定に取り組んでいます。

また県内の**スポーツ振興**の機会づくりとして、平成九年に第十五回男子世界ハンドボール選手権大会、平成十一年に「くまもと未来国体」が開かれます。

本県の大きな課題として残されている水俣病問題についても、全面的な解決に向けての取組みを進めています。

シルバースポーツ交流大会（H7.5.16）

（※）〈ノーマライゼーション〉

年齢や障害の有無にかかわらず、高齢者も障害者も、すべての人々が同じ社会の一員として、共に地域で暮らし、共に生きていけるように環境整備していくこと。また、そのような社会こそ当り前の社会であるという考え方。

もともとは、デンマークで精神薄弱者への対応から始まった考え方であるが、その後、広がりを見せ、国連の「障害者の権利宣言」（1975）、「国際障害者年行動計画」（1979）にも、その理念が反映されるようになるなど、現在では社会福祉一般の基本的な理念として国際的にも定着化している。

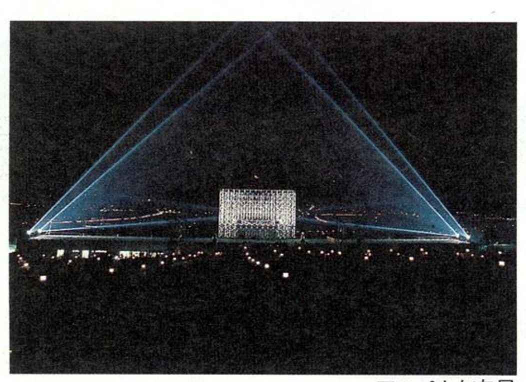
県内を七つの生活域に区分。各圏域の可能性を伸ばし、活かしていく取組みを進めています。

県計画では、「躍動するくまもとづくり」「優しいくまもとづくり」の二つの柱を、さらにきめ細かく、それぞれの地域ごとに実現できるよう県内を七つに区分した生活圏域を決め、各地域の個性をいかしながら、広域的な考え方に立った魅力ある地域づくりを進めています。

まず、熊本市及びその周辺の熊本広域都市圏については、九州における拠点性を高めたり県勢発展のけん引役としての役割を果たしていくために県や市、民間の役割分担、短期・中長期のスケジュールを明確にしたアクションプログラムを策定したところです。

その他の圏域では、宇城、菊池、上益城地域定住環境整備、県北連担都市地域整備、阿蘇国際高原リゾート基地整備、八代県南拠点整備、芦北七浦パークコースト整備、「相良」自然と歴史・文化の里整備、天草海洋リゾート基地整備などに取り組んでいます。

県立装飾古墳館


アスペクタ夜景

住みやすい熊本づくりのために・・・

景気低迷の影響もあり、県財政は厳しい状況が続いています。県では、行政改革を進めながら、素晴しい自然風土の中で、物心ともに豊かで調和がとれ、お互いの価値観を認めあう開かれた社会、「熊本に住んでよかった」と言われるようなふるさとをつくっていきたいと考えています。そのためには、「助けあい、励ましあい、志高く」の熊本の心を持ち、県民の皆様と力をあわせていきたいと思います。

戦後の熊本をふりかえる。

戦後五十年という節目を迎えた今年。この間の熊本県政の歩みを振り返ってみましょう。

年・月	熊本県の主な出来事	日本の主な出来事
昭22・4	知事・市町村長選挙、第一回公選知事に桜井三郎当選	
〃・10	戦後第一回国勢調査、県人口一、七六五、七二六人	
昭23・11	県教育委員会発足　初代委員長　金栗四三氏	
昭24・3	県立女子大学設立	
昭28・6	熊本大水害　死者五三七名　被害額　八三一億円（家屋全壊　一、八五五戸、半壊　六、五一二戸）	日本放送協会東京でテレビ放送開始
〃・9	町村合併促進法施行（二八・一〇・一現在　五市三一五町村）	
昭29・7	熊本県警察発足（同年九月警察本部設置）	
昭31・5	水俣病の公式発見	
〃・7	天草島、国立公園に指定	
昭35・10	熊本国体開催	カラーテレビ本放送開始
昭37・3	「くまもと博」開幕（六十二日間）	
昭39・10	やまなみハイウェイ（大分県湯布院町〜熊本県一の宮町間）五二km開通	オリンピック東京大会
昭41・7	天草五橋開通	
昭43・		東京府中で「三億円事件」
昭46・4	熊本空港開港、東京、大阪、名古屋便就航（ジェット機初就航）	
〃・6	九州縦貫道　熊本・植木間供用開始	
昭53・		日中平和友好条約調印（北京）
昭59・3	熊本テクノポリス開発計画の承認	
〃・8	ロス五輪柔道金メダリスト山下泰祐六段に第一号の県民栄誉賞を授与	
昭60・5	第三十六回　全国植樹祭（於阿蘇・みんなの森）	世界最長の青函トンネルが開通
昭61・8	第四回都市緑化フェア「クマモトグリーンピック'86」の開幕（七十三日間）	
昭62・10	第二回国民文化祭・熊本」開催（十月十一日まで）	
平2・7	アルベルト・フジモリ次期大統領（当時）来熊	日本人初の宇宙飛行士秋山氏帰還
平3・9	九州新幹線鹿児島ルート八代〜西鹿児島間本格着工の起工式	
平5・1	熊本県総合計画「ゆたかさ多彩『生活創造』くまもと」策定	
平5・3	熊本港開港・旅客ターミナルビル完成	
平6・4	熊本県立大学スタート	
平7・5	九州新幹線熊本駅整備調整事業起工式	
〃・7	九州縦貫自動車道全線開通	
〃・8	「㈱くまもとファズ」設立	

私の戦後五十年

終戦後十年、農家なのに、食べる物に不自由しました

植木町　内田雪江さん

戦後五十年。一番たいへんだったのは、やっぱり終戦直後の十年ぐらいですね。地主に嫁ぎ、戦後は、残った土地で主人とにわか農家。なかなか収穫が上がらなくて。農家なのに、家族が食べる物にも不自由しました。だんだんと、世の中も暮らしも落ち着きましたけど。

健康のためにと卓球を始めたのは、六十一歳の時。卓球を通して、日本や世界にたくさんのお友達ができて…。こうして運動が楽しめるのも、世の中が豊かになったおかげですね（談）。

内田さんのプロフィール

明治四十五年生まれ。昭和六十一年、七十四歳の時に第三回世界ベテラン卓球選手権大会で優勝。今年五月、第一回北京国際ベテラン卓球選手権大会で、シングルス・ダブルスの二冠を獲得。